

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成28年3月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4690100674
法人名	医療法人裕智会
事業所名	グループホームアルプスの風
所在地	鹿児島市荒田一丁目11番1号 (電話) 099-296-8008
自己評価作成日	平成27年12月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成28年2月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

○認知症の理解を深めると共に、日常的にケアを振り返って、パーソンセンタードケアが確実に実践できる介護者を目指して取り組んでいる。
○地域にあるグループホームとして、地域の方が認知症や介護の相談ができる場所であり、介護が必要となっても住み続けられる地域であるために、ある・あるカフェを開設した。地域に根ざしたの交流の場を視野に、楽しめるような企画により活動を行なっている。
○院内研修も法人の各事業所が持ちまわりで行い、担当することと、受講することとで学べるような体制を作っている。研修報告書は、学んだことの再確認と、研修内容から自己を考察することを含めて、参加者全員が提出している。
○法人理事長のリハビリ体操、音楽専門の方による『音を楽しむ会』、ボランティアの方によるアコーディオンの演奏と歌、太極拳、地域の保育園児の来訪や中学生の職場体験の受け入れなどの地域との交流も継続して行なっている。
○入居者の活動・参加で生活機能を高めるために、壁絵作りや外出、誕生会や敬老会、秋祭り、地域の文化祭、クリスマス会、忘年会、餅つきを行なっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○鹿児島市の市街地に建てられているホームで、同じ建物に法人のクリニック、居宅介護支援事業所、通所リハビリテーション等が併設されている。法人のクリニックとは連携が十分に図られており、重度化や終末期の対応体制の充実も含めて利用者や家族にとって大きな安心に結びついている。
○利用者の思いや意見とともに、ご家族の要望等も来訪時や家族会等で話しやすい雰囲気作りに努め、きめ細かく把握できるように努めている。昨年の秋からは建物の5階のスペースで「認知症カフェ」を開き、介護に関する意見や情報交換の場として、ご家族や地域の方々に活用されている。今後益々ホームの理解も進み地域との関係の広がりが期待できる。また、管理者は県内の交流会等の場で認知症ケアの事例発表も行っている。
○利用者一人ひとりが自由に楽しく暮らせるように、利用者の何気ない言葉や表情にも注意を払い、気持ちが落ち着くよう話し方も工夫してゆっくりと利用者の思いを掴めるように心がけている。丁寧に記述されているケアプランや経過記録・生活日誌等で情報を共有して利用者本位の支援に結びつくよう取り組んでいる。
○法人内の研修も計画的で充実しており、グループホーム内でも管理者自らが、認知症ケアや重度化した場合の支援など、多くの研修テーマを設定して熱心に職員の育成に努め、良好なチームワークと質の高い研修でより良いケアの実現に取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	ステーションに「利用者の意思決定を重視すること・地域社会との繋がり」と理念を掲示。理念の意義の理解を深めるため、月に一度の職員カンファレンス、毎日の申し送りなどを通して実践に活かせるよう努力している。	ホームの理念及び法人の目標に加え、ホームの目標も作成している。理念は玄関やスタッフルームに掲示して、毎日の申し送りや月1回の職員カンファレンスを通じて意義の理解を深めるように努め、利用者が地域や家族とのつながりを大切にして、日々楽しく暮らせるよう支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年間の行事に、音を楽しむ会、地域文化祭への出展、秋祭り、餅つき、地域保育園児との交流、認知症カフェなどがあり、地域住民との行事への参加を通じ、入居者と地域との交流を図っている。	校区の文化祭には利用者の作品を出展するほか、保育園児の来訪や中学生の職場体験学習、実習生の受入れも行っている。また、隣接する関連施設での餅つきやホームの秋祭り・ボランティアによる音楽会等のほか、毎月開催している認知症カフェ等に家族や地域の方々に参加頂くなど日頃から交流を図っており、利用者はこれらの機会を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	中学生の職場体験の受け入れを行なっている。月に一度、認知症カフェを新しい試みとして開催。認知症について一般の方の理解と、支援体制の構築、意見交換の場となれるように努力中。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を二ヶ月に一回開催。入居者・家族・民生委員・地域住民・地域包括支援センターの職員の出席の下、入居者の生活状況の報告を行なっている。今後の課題や改善点などをケアに生かせるようスタッフ全員が記録より情報を収集・共有に努めている。	会議は、家族や利用者・地域の民生委員・消防や地域包括支援センターの職員等が参加して定期的に開催されている。ホームや利用者の現況や行事・外部評価結果等の報告の他、課題や委員からの提案等について活発な意見交換が行われ日々のサービス向上につなげている。消防署職員参加の際には、防災に関する説明も行われるなど非常に有意義な場になっている。また、職員は議事録により内容を共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設の運営に必要な各種手続きや相談事など、市担当者への問い合わせを通して随時連携・助言をいただいている。	市担当者には訪問や電話による、各種の手続きや運営上の相談に助言・対応して頂くなどの連携を図り、協働してサービス向上に取り組んでいる。また、介護相談員の受入れや市が主催する研修会にも積極的に出席している。地域包括支援センターとも運営推進会議での意見交換のほか、地域の活動を通しての情報交換や意見交換等により協力関係を築くように努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の危険性について理解を深めていくため、研修や勉強会を定期的に行っている。身体拘束廃止に今後も努めていく。職員は随時、環境整備やケアの工夫を行ない利用者にとって安心・安全な生活が送れるよう支援していく。	言葉による拘束や気持ちの押さえつけなどの排除を含む身体拘束については、マニュアル整備や法人全体の研修への参加で理解を深め、日々のケアの中でも繰り返し確認して支援に努めている。日中は居室や玄関の施錠は行わず、職員は日頃から安全に十分配慮し見守りを徹底して自由な暮らしの支援に努めている。利用者が外出しそうな状況の時には、一緒に付き添うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員全員が、定期的に行う身体拘束廃止と高齢者虐待防止の研修や勉強会に参加し理解を深めている。虐待や身体拘束を事業所内で意識しあい注意を促し防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護や成年後見制度についての研修を行い、理解を深めるようにしている。今後も状況に応じ関係機関と連絡・相談や連携を図りながら活用していく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居の契約締結時に互いに契約書の読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点などを随時質問できるようにしている。解約や改正が必要になった際も、その都度十分な説明を行い理解していただけるよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロア入り口に御意見箱を設置し随時意見・苦情など受け付けている。また運営推進委員会議事録や外部評価記録を自由に閲覧できるようにしている。半年の一度の家族会でも家族同士の懇談会の時間を設け決定したことを家族会会長から管理者へ頂き、その後運営に反映させるよう努めている。	利用者の思いや意見は入所時の聞き取りのほか、日々の暮らしやケアプラン作成時の対話を通じて、ご家族とは面会時や定期的な家族会等での対話で把握に努めている。家族会での意見交換で出された要望等をはじめ、職員は情報を共有して必要な場合は申し送りや職員カンファレンスで対応を協議し、速やかに本人や家族に報告して信頼関係も築くように努め、業務改善やサービスの質向上に具体的に活かせるように取り組んでいる。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員カンファレンスの実施し職員間や管理者とも意見交換や相互理解をする機会を設けている。	職員の意見や提案は、毎日の申し送りや毎月の職員カンファレンスで聞き取ると共に、日常の対話や個別面談等を通じて把握に努め、業務改善やサービス向上、職員が働きやすい職場環境づくりに努めている。また、管理者及び計画作成担当者は、日常的に話しやすい雰囲気作りに努めて職員の相談等に助言や提案を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理面接を行い職員の目標・業務に関する姿勢など、個々人を理解する時間を設けている。それを客観的に適切な評価と支援につなげるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月に一回、各部署持ち回りで内部研修を行なっている。また外部研修にも積極的に参加出来るように研修を案内している。今後も職員の資質向上のため研修の働きかけを行なっていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修の機会や、同業者の実習受け入れの機会を活かし交流を行いネットワークの形成や互いのサービスの向上にさらに努めていく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接や周囲からの情報提供を基に、本人の困りごとなどを聞く機会を設けている。サービス開始時にはその人の「思い」を大切にしたいケアプランを立てケアの実践をするようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族と事前面接を行い、困りごとを聴く機会としている。同時にこれまでの家族の負担を十分に理解し、今までの介護に対するねぎらいや介護負担軽減・要望を把握し、信頼関係の形成をできるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族からの面接などをもとに必要な支援を計画する。サービス開始時には優先順位をつけ、できるだけ早く入居者が安心して生活をおくれるよう支援していく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者自ら「できる事はする」という意識を持てるような働きかけを行なう。日頃からコミュニケーションを取ることや、アセスメントを通して現存能力の把握をし、共同生活者としての関係を築けるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と職員、医療従事者などは一丸となりケアチームの《パートナー》であることを理解して頂くよう説明している。面会も喜んで会いに来ていただけるような環境作りや雰囲気作りを行なっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の社会とのかかわりの重要性を理解し面会や外出の自由を確保している。また関係性の維持のため職員も付き添ったり連絡などを行う事などで支援している。	入所時の聞き取りやご家族の来訪時にこれまでの生活の様子をお聞きし、入所申込書やケアプラン等で情報を共有して、本人が希望する近隣のドライブ、馴染みの美容室や商店、外食等への同行を、ご家族の協力も得ながら支援している。また、電話や手紙の取り次ぎのほか、利用者の家族や知人の来訪時には、ゆっくりと過ごせるように配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係性を把握しその都度適切な声掛けや介入をしている。レクリエーションや、ティータイムを通して、一緒に楽しめる環境による関係性の改善、支援体制作りにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者のサービス利用の終了後も、その家族が併設しているクリニックに通院されることがあり、電話での連絡があるなど、相談やフォローを行なう機会があり、努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	言葉や口調、表情等から思いや希望を汲み取ることができるよう努めている。モニタリングを定期的に行い、アセスメントを重ねることで本人を中心としたケアプランとなるよう努めている。	利用開始時の聞き取り情報をはじめ、日々の暮らしで思いや意向をくみ取るように努力している。利用者の何気ない言葉や表情にも注意して気持ちが落ち着くよう話しかけ、ゆっくりと聞くようにしている。内容は申し送りや経過記録・生活日誌等で共有し、必要な対応を検討して安心して暮らせるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や情報提供書、またケアマネージャーなどからの情報収集により、フェイスシートを作成、本人の生活背景や生活歴などの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に生活の記録や日誌、熱計表に目を通すほか、申し送りにより、情報収集と共有を行なっている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各利用者の担当職員が中間・更新前評価を作成し、また他職員の意見を参考にして計画作成担当者が介護計画書を作成している。実施の前に家族・利用者本人・計画作成担当者・職員などでカンファレンスを行い協議し、そこでまとまった内容をケアプランに反映させている。	本人・家族、ケアマネ及び担当の職員も参加した担当者会議で希望や意向を聞き、主治医からの意見や担当職員のモニタリング等も反映した利用者本位の介護計画を作成している。また、定期的にケアの経過を評価し、必要な修正を施すと共に、状態変化に対応した話し合いのもと計画修正を適切に行っている。また、フォーカス・チャートニング様式で生活の様式が一目でわかる工夫もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の記録内にフォーカスチャータイングの様式で経過を記録している。実施したケア、本人の思いを紙面でも読み取れるような記録に努め、情報の把握やケアプランの見直しにも活用できるように工夫している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各入居者の希望や思いなど状況の変化を把握し、それぞれのニーズに対応したケアをできる様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員会、季節ごとの行事に地域の方の参加を呼びかけている。またこちらから地域の文化祭にも展示物の出展を行うなど双方共に豊かな関係性を育めるよう努めている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	体調が悪い時などには、すぐ主治医と連携を取れる体制を整えている。また月に2度の定期受診や、普段から体調の変化を観察・報告するなどの環境、主治医の支援体制がある。	本人や家族の希望に沿って併設の母体医療機関で2週に1回、定期的に受診している。受診の記録や薬局からの情報は整理して関係者で共有し、ご家族とも適切に連絡が取られている。日常的に看護師による健康チェックが行われ、緊急時等も母体医療機関で適切な医療が受けられる状況である。なお、専門医の受診はご家族で対応して頂いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携看護師が日常的な看護介入、週に一度の記録など、利用者の健康状態のチェックを行なっている。介護職員から得た情報も活かして、医療連携体制を整えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	急な体調不良などにより入院した時にもスムーズに情報の提供をし、安心して治療できるよう介護サマリーを作成、他医療機関への情報提供に努めている。また入院中の見舞いや電話連絡などを通して早期の退院に向けた関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族にも重症化・終末期に向けての指針を説明し理解を得られている。また終末期への移行時などは早期に家族とのカンファレンスなどを行い協力を得られるように取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、「重度化・看取りに関する指針」により方針を説明し、同意を得ている。利用者の状態の変化や本人・家族の思いの変化の都度繰り返し話し合い、主治医や職員等関係者と十分に連携を図り、家族の希望を大切にしながらホームとして様々な状況に可能な限り支援・対応できる体制を築いている。また、管理者は自ら資料を作成して、職員のスキルアップを図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員全員参加のうえ救急救命の講習を定期的実施し、応急手当の実技指導を受けている。実技経験を活かし緊急時に対応できるよう努力している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の指導のもと定期的な避難訓練を行っており、スムーズな移動や避難経路のチェック、警報機などのシステム的な操作訓練などを行い、初期対応を安全に迅速に行えるようつとめている。夜間想定での避難訓練も実施した。</p>	<p>地域の民生委員にも参加して頂き、年2回消防署の協力を得て火災や地震を想定した避難・通報・消火訓練を行い、消防署からは関連する講話や指導も受けている。また、今後は職員カンファレンスの際に、夜間想定でのシミュレーション訓練も実施予定である。スプリンクラーや自動通報装置等の設置及びマニュアルも整備され、食料や飲料水等の備蓄もリスト整備されて問題のない状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を理解し、誇りを損ねないよう一人ひとりに合った声掛けと対応をおこなっている。	プライバシー保護に関するマニュアルの整備や研修も充実しており、利用者の人格や尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねないように、日常のケアに際して職員が話し合いながら、個々に合った丁寧な声かけや対応を心がけている。また、実習生受け入れ時の説明及び各種の個人記録や居室の保護にも十分に配慮がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	コミュニケーションを重要視し普段からの関係作りに努めている。入居者が思いを伝えやすい環境を視野に、希望を職員全体で把握、共有し入居者の自己決定を大切にしよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の価値観を押し付けず入居者の趣味、嗜好、希望などをケアの中心にすえている。その時その時の希望の把握に努め、入居者が自分らしく生活できるような支援を行なっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	声掛けにより整髪、整容などを入居者が清潔に、そしておしゃれを楽しみながら生活できるよう努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者それぞれできる事を把握し、食事の用意、御盆の準備、食器洗いをして頂いている。それぞれが役割ややりがいを感じれるよう意識しながら共同生活を送れる支援に努めている。	利用者の好みも献立に反映させ、食卓の準備・後片付け、おやつ作りなど、利用者の能力に応じて手伝ってもらい、やりがいも感じて頂きながら楽しく食事できるようにしている。敬老会時の外食・弁当持参の外出・季節の行事食・誕生会時の希望の食事提供など、利用者の楽しみにつながる多くの工夫も行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>一日の栄養バランスを考えた食事になるよう努めている。入居者の食事量や水分量に気を配り、適切な食事量・水分量になるよう声掛けなどで支援している。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>口腔衛生の重要性を職員が認識し、毎食後にそれぞれの入居者に口腔ケアの支援を行なっている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている</p>	<p>トイレでの排泄の重要性を職員が理解し、トイレでの排泄が続けられるように支援している。また入居者の羞恥心や尊厳にも十分に配慮し、支援を行なっている。</p>	<p>利用者の細かい様子観察や関連記録の活用で利用者個々の排泄リズムを把握し、誘導や声かけは羞恥心・不安の軽減にも配慮しながら排泄の自立のための支援を行っている。一連の工夫はケアプランにも反映し、個人の習慣や身体機能に応じた支援になるように取り組んでいる。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>便秘が入居者の心身に与える影響を理解し、排泄のチェックを毎日行い必要な支援を行なっている。また食事内容の工夫や運動など、個々に合わせた支援も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週三回の入浴だが、入居者それぞれの心身や希望に添えるよう心掛けています。できる限り希望に添えるようしたいが、入浴時間など、健康状態に応じた介入も必要ではないかと考えている。	利用者の希望や体調に配慮し、時には清拭や足浴への変更も含め、基本は週3回ゆったりと安心して入浴できるよう、声かけや誘導も工夫して支援している。入浴時はゆっくりと対話しながら身体状況の観察にも努めている。入浴を拒否されるような場合には、時間帯の変更やタイミングの良い声かけなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	21時消灯ではあるが、眠たい時間に横になってもらい、エアコン等で快適な環境となるよう支援している。日中もその時々で休息してもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	法人の主治医からの説明や薬剤師からの薬剤師管理指導を受け薬の理解をしている。夜間・日中を通し、巡視・見守りを行うことで状態変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの興味・得意分野を把握し、カウンター越しに話をしながらお盆拭きをしたり、一緒に洗濯物をたたんだり干したりしている。壁面飾りは入居者も夢中に作成している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	降灰や悪天候で外出ができない時は日曜日に昔馴染み・よく出かけていた所をドライブするなどしている。家族の協力で馴染みの美容室でのカットや外食などの支援もある。	天気のよい日は利用者の健康状態に応じて、日常的に近隣の散歩やドライブ・買い物、5階屋上での日光浴等を楽しんで頂いている。また、利用者の希望も確認しながら、敬老会時の外食や花見・関連施設の行事などに、また、日曜日には、利用者個々の希望に沿って市内各所へドライブに出かけている。時にはご家族と一緒に馴染みの美容室や外食・外泊も楽しまれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>お金を身につけることでの安心を理解している。。小口現金として預かっていて、一緒にスーパーで買い物をすることや、定期的にかかれる買い物レク(リハ)を生活の中に取り入れている。。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>通信の自由は保障されていて、連絡を取り合うことの大切さを理解している。時間帯によって応じれない事もあるが、希望がある時にできるだけ連絡をとれるよう家族にも協力を依頼している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用の空間は清潔に保ち、不快な思いをされないよう支援している。フロアが広い為、殺風景にならないよう季節感のある壁面飾りをたくさん飾ったり、場所によってエアコンを調整したり、少しでも居心地良く過ごせるよう工夫している。</p>	<p>リビングはゆったりとしたスペースで明るく、季節の花や保育園児の絵とともに、季節感のある貼り絵や折り紙などが飾られ、落ち着いた雰囲気の中で、静かに心地よく過ごせるように工夫されている。大きめのソファも配置され、清潔さや空調にも細かく気配りされて、利用者が自由に気持ちよく暮らせるような環境となっている。また、建物の5階屋上にはいくつかのプランターが置かれ、天気の良い日は日光浴も楽しむことができる。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>利用者の関係性も考え、座席を調整したり、椅子代わりに配置した窓辺の畳ベッドで日向ぼっこしたり、ソファの置き方を工夫し、周りを気にせず団欒できるように配慮している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	御家族の協力もあり、馴染みの家具を持ってきていただいている。御自身で塗った毎月のカレンダーや壁飾り、写真立てや賞状を飾って居心地のいい居室作りを工夫している。	居室にはエアコンとベッドが準備され、利用者やご家族の希望に沿って居心地よく過ごせるように対応している。利用者が使い慣れた寝具やテーブル・椅子などの家具・日用品・写真等を自由に持ち込んで頂き、ご家族とも協力しながらプライバシーへの配慮も含めて本人が落ち着いて暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行の安全に向けた環境の整備を考え、できる限り自身の力で過ごせるような環境作りを行なっている。体調の変化等で援助が必要な時は本人の自信をそこなわないように気をつけ支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所の理念に「あなたの家族や地域との繋がりを大切に」と、うたっており、その理念を玄関やスタッフルームに掲示している。申し送りや職員カンファレンス等の場を通して理念の意義の理解を深め、共有し、ケアの実践に繋げている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	秋祭り・餅つき等の行事や認知症カフェの際は、地域の方々に参加を呼びかけ、一緒に行事に参加する事で入居者と地域住民の方との交流が図れている。又、校区の文化祭への出展や近隣の保育園児の来訪、中学生の職場体験の受け入れ等を通して地域の方との交流の機会となっている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	2ヶ月に1回の運営推進会議の時、地域の方々に参加を呼びかけ、認知症についての知識や支援方法等を伝えており、地域の方々が認知症への理解を深める機会となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヶ月に1回、入居者・家族・地域住民・民生委員・地域包括支援センター職員・消防署職員に参加呼びかけ開催している。入居者の最近の生活状況等を報告して、参加者全員で課題や改善点などを意見交換している。会議録を職員全員で回覧し共有して、日々のケアの実践に繋げている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	事業所の運営にあたり、各種手続きや相談などあった時は、状況に応じて市の担当者に随時問い合わせ、助言や協力を受けるようにしている。今後も市の担当者との連携を図りながら、協力関係の構築に努めていく。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員全員参加して、身体拘束廃止についての研修を定期的に行い、身体拘束廃止についての理解を深めている。日々、職員は安全に十分配慮しながら、入居者が自由に安心して生活できるように心掛けている。今後も身体拘束廃止に努めていく。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止の研修と共に高齢者虐待防止の研修も職員全員参加している。研修で学んだ事を活かして、日頃より注意をはらい、管理者及び職員が虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護についての研修を実施し、理解を深めるように努めている。今後、状況に応じて関係機関との連携を図りながら制度の活用をしていく。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約締結時には契約書の読み合わせを行い、入居者及び家族が疑問点など随時質問できるようにしている。解約や改正が必要になった際も、その都度十分に説明を行い、理解して貰える様に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	フロアの入り口のご意見箱を設置している。運営推進委員会議事録を閲覧できるようにしている。また家族会でも懇談会で家族同士で意見交換し、話した事を家族会会長から管理者へ報告し、その後の運営に反映するよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1回の職員カンファレンスを設け、日頃から管理者を含め、職員間の交流を持ち意見交換や情報共有に努め、運営に反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	職員個々の勤務状況の把握に努めたり、個々人を理解する為に目標面接を行い、客観的に適切な評価を行っている。それに伴い、職員がやりがいを持って働けるように職場環境の整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の内部研修の参加機会と、全職員の外部研修参加に向けた研修案内の開示などにより、積極的に働き掛けている。今後も職員の研修参加の意欲向上に繋がるように働き掛けていく。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>外部研修による同業者との交流の機会や実習受入による交流の機会もある。今後も同業者との交流の機会を積極的に持ちながら、更なるサービスの向上に取り組んでいく。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族との事前面接で得た情報をもとに、本人の要望や困り事などを聞き、関係構築に努めている。サービス開始時にはその人の「思い」を反映したケアプランを作成し、職員間で共有して安心して暮らせるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接を行い、利用開始時に要望や困り事を聞いている。またこれまでの介護に対する労いや介護負担軽減に向けた話し合いを通して、信頼関係が築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時に本人の状態と思いを受け止め、家族の要望などの把握と共に、専門性を生かした対応ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者一人ひとりが『できる事はする。』という意識がもてるよう、入居者のできる事とできない事を見極めたアセスメントによるサポート体制により、共同生活者としての関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居時に、家族と職員は入居者を支えあうケアチームであることを話している。面会時などは職員から家族・家族から職員へと最近の現状など話し、より良い関係を築いていけるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活を把握し、自由な面会・外出、なじみの人や場所との交流を継続できるよう支援、家族の協力が不可欠である事を伝え支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日のレクリエーションやお茶の時間など、入居者同士の会話の時間を設け、よい関係の継続ができるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても通院や受診された時に、相談やフォローしていくことがある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の思いや意向を受け入れるよう努め、不安の解消になるよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・情報提供書やケアマネージャーから情報収集し、フェイスシートを作成し今までの生活や趣味・嗜好を把握し職員間での共有をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	業務に入る前に、日誌や記録を読み申し送りを受ける事で、情報収集をしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が作成した中間評価や、他職員の意見を参考にして計画作成担当者が介護計画書を作成している。実施の前にカンファレンスを行い協議し、ケアプランに反映させるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	フォーカスチャータリングの様式で経過を記録している。実施したケアや本人の思いを紙面からでも読み取れるので、情報の把握やケアやプランの見直しにも適している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の希望や思いの状況の変化を察知しニーズに対応したケアをできるように努力している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な運営推進会議、季節行事などを通じて地域の方々からの意見を取り入れ、地域のイベントに展示物の出展をするなどの交流を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の定期受診や体調が悪い時など、直ぐに主治医と連携を図り、受診ができる体制ができている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常的な看護師の健康チェックと、医療連携看護師の最低でも週1回の記録を通し、医療連携、情報の共有や意見交換を行い支援できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が入院した時、安心して治療できるようサマリーを作成して情報提供に努め、お見舞いなどを通して早期の退院に向けた関係作りを努力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化、終末期に向けての指針を説明し理解を得られている、カンファレンスや家族会を通じて事業所でできる事を説明し協力を得られるように取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の講習を定期的に実施し応急手当の実技指導を受け緊急時の対応を学んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の立会いの下、年に2回の避難訓練を実施。そのうち1回は昼間と夜間想定避難訓練を実施し、地域の方も参加・協力を頂いた。今後、職員カンファレンスで、夜間を想定したシュミレーション訓練を実施予定である。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者に対し、一人ひとりに合った声かけをしている。不安・不穏時は思いを傾聴し不安解消に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日、体操やレクリエーションを行っており、入居者とのコミュニケーションを大事にしている。また、入居者の希望を大切に、可能な限り生活の中の選択や自己決定を重視・支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者中心の生活ができるよう、職員が入居者の希望に添い、生活できるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	整髪・整容・お化粧品など清潔でおしゃれを楽しめるよう支援している。また、買い物レクリエーション（リハビリ）もあり、自分で好きな服を選ぶ楽しみが持てるように努めている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者と一緒に食事の準備をしたりゴミを捨てたり、また洗濯物を干したりたたんだり、一人ひとりの力を活かしながら生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の栄養バランスを考えた献立や、入居者個々の嚥下の状態を考えた調理をしている。食事量、水分量も観察して、できるだけ、一日に必要な栄養や水分が取れるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内の清潔の重要性を職員が理解して、毎食後に口腔ケアの声掛けと必要な支援を行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレでの排泄は認知症の進行にも関わる重要なことと認識して、トイレでの排泄が続けられるように、排泄パターンを把握し声かけ誘導の支援を行なっている。羞恥心、プライドにも配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘が心身に及ぼす影響を考え、毎日の排便の状態を把握している。そのうえで、個々に応じて必要な支援を行っている。また、食事の工夫や適度な運動も心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週3回の入浴を基本とし、心身の状況に応じた入浴支援を行っている。入浴の際は、ゆったりと入れるような声かけや環境作りにも努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活リズムを尊重し、ゆっくり休めるように支援している。居室の環境も整え快適な睡眠が取れるように気をつけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬に対して主治医や薬剤師より指導を受けている。また症状に変化がある場合主治医に直ぐ報告し、主治医の判断を受けて対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活における個々の役割りを持つように心がけている。家事活動、レクリエーション活動、行事、散歩などを通し気分転換等の支援をしている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	散歩や屋外の行事など外出の機会があり、入居者の希望も聞きながら実施している。家族にも外出や外泊の協力頂ける様に働きかけている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>入居者がお金を持つことで少しでも安心できるように努めている。要望がある際には職員と買い物に行ける様に小口現金としてお金を預かり支援している。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>電話や手紙の自由は基本的な人権に関わることと捉えている。要望がある際には、自由に電話など行なえるよう支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>物的環境・人的環境を整え、入居者が安心でき、心地よく毎日を過ごしてもらえるように支援している。置物や壁画など、季節を感じられるようなものを、入居者、職員共同で制作するように心掛けている。</p>		
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>レクリエーション等を通し、入居者同士がコミュニケーションを図れるよう機会を設けると共に、独りでのプライベートな時間も、大切にしてもらえるように配慮をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、使い慣れた家具等を持参してもらうことで、居心地のよい場所となるよう配慮している。定期的な寝具交換や毎朝の清掃を行なっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者の状態に合わせ、できるところは声かけや、必要に応じた支援をしていくことで、自立した日常生活が出来るようにしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない